

始めませんか？ エコな暮らし

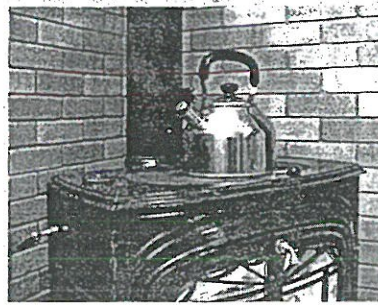
～木で暖まる冬の楽しみ方～

特集

気づけば今年も残り2カ月を切り、冬の足音が近づいています。「そろそろ冬支度を」と考えているあなた。この冬は一味違ったエコなぬくもりで暖をとりませんか。

皆さんのご家庭にはどんな暖房器具が備えてあるでしょうか。その中でストーブは、ほとんどのご家庭にあると言ってもいい暖房器具の代表格。そんなストーブに少し目を向けてみましょう。

薪ストーブやペレットストーブに着目



柔らかな炎が生み出す
“心地よさ”

現在、石油ストーブを使っているという方が多いと思いますが、数十年前までの私たちの生活は山林とは切り離せず、山の恵である木材をさまざまに形で活用し、暖をとるにも木は欠かせませんでした。ストーブは部屋を暖めるだけでなく、生活を楽しむ



ツールとして利用する人も増えていて、インテリアとしても人気が高まっています。中でも少しずつ増えてきているのが、薪や木質ペレットを燃料として使うストーブ。木を燃やして暖めるこれらのストーブは輻射熱が放出され、石油ストーブにはない「心地よさ」を感じることで、柔らかな炎を見て癒やされるという人も少なくありま

せん。しかしながら、薪ストーブやペレットストーブは、石油ストーブにはない、煩わしさがあります。薪の調達や煙突掃除などが必要になるため、手に負えないと言う方も多いため、この面倒な部分がいかに楽しみに変えていけるかが、薪ストーブ・ペレットストーブを導入するポイントのようです。

スタイル 1

ペレットストーブ



レトロな雰囲気と店にマッチ
JR芸備線の山ノ内駅前にある、手作り服と雑貨のお店「ののはな」では、2年前からペレットストーブを使っています。

この店を営む店主の仁井加

須美さんは、実家が営んでいたお店の地下にあった倉庫を改修して、手作りの服や雑貨を扱うお店を3年前にオープン。ペレットストーブは店の中ほどに据え付けてあり、入り口を入るとすぐ目に飛び込んできます。倉庫を改修して



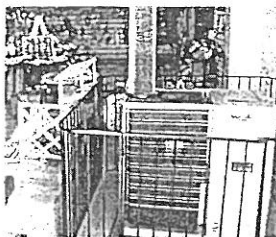
ののはな店主
仁井加須美さん

ペレットは軽いので扱いやすいですし、手が汚れにくいのでいいですね。ストーブにペレットを入れておけば、勝手に火元に落ちて燃えていくのでいちいち入れなくてもいいですし、ペレットが落ちていくコロコロという音もいいですよ。ペレットストーブはアンティークな感じで、エコ感もあっていいですね。



手作り服と雑貨のお店
hand made ののはな

住所:山内町1416-4
☎0824-74-0503
営業時間:10:00~17:00
定休日:水・木・日・祝(臨時休業あり)



写真右奥に見えるのが
ペレットストーブ。お
店のアクセントになっ
ている



いるためか冬場は寒く、以前は石油ストーブを2台置いていたという仁井さん。それがペレットストーブを置いて一変したといいます。「石油ストーブだと部分的に暖まる感じですが、ペレットストーブは部屋全体が暖かくなるので、一画を作業場としても使っている私にはとても助かります。これ一台で石油ストーブ2台分以上の働きをしてくれています」と喜びを語ります。

お客さんからも評判が良く、「ものの中古品ですがストーブとしては全く問題がありません。逆にレトロな雰囲気がいいねと言ってくださるお客さまもいて、インテリアとしても入れてよかったです」と笑顔を見せています。

経費節減に一役

本村自治振興区では、平成20年度に当時の本村公民館に市が導入したペレットストーブを、現在の自治振興センターに移転した後も愛用してきました。

事務局長の小野寺信一さんは冬場になると、朝職場に来

てまず行るのがペレットストーブの掃除です。ペレットの燃えカスや灰を取り除き各所を点検した後、きれいに布巾がけてペレットを補給します。火がおこるまで少し時間がかかるので、朝は石油ストーブを併用し、暖かくなるとペレットストーブだけにします。「暖かくなるまで時間がかかりますが、いったん暖かくなるとすごく暖かいです。そのうえ一月6千円も経費が安くなりました。今後も灯油は安くなりそうにないので、ペレットを使うメリットは大きいと思います。メンテナンスは面倒ですが、経費の節減にもなるし、空気も汚れないので化石燃料に比べて気分もいいですね」と話しています。

ペレットストーブのメリット

薪の3倍の熱量がある(重量比)。デザイン性が高く、種類が豊富。煙は少なく、燃料管理が楽。炎の調整など操作、煙突掃除が簡単。炎や木のおいを楽しめる。手が汚れにくい。など

●デメリットも知っておこう
停電すると使えない機種が多い。薪ほどではないが灰が出る。こまめな掃除が必要。など

庄原産の木質ペレットで地産地消を

ペレットストーブに欠かせない木質ペレットを製造販売している国内有数の会社「庄原市」にあります。

市は豊富な森林資源の活用を目的に、市内木材を原料にした木質ペレットを製造する第三セクター「庄原さとやまペレット株式会社」を平成21年11月に設立。製造されたペレットは市内の公共施設を中心に使用されています。

しかしながら、庄原産ペレットのこれまでの評価は決していいものではありませんでした。それは「灰が多く出る」という点。そうした利用者からの声について同社の本山輝俊工場長に話を聞きました。



本村自治振興区
事務局長 小野寺信一さん
事務局員 森永律子さん

火が見えるのがとてもいいですね。ペレットストーブの使い方や手引書があれば、もっと誰もが楽に使えるようになるのではないのでしょうか。

のいい香りがする点です。最近では瀬戸内沿岸部の業者などから注文をいただくことが増え、年間で10tくらいご利用いただいています。ペレットの品質が原因で不具合があったり、トラブルが起きたりということはほとんどありません。取り引きいただいている業者からも評価いただいています。また、ペレットストーブとの相性もあります。庄原産ペレットに適したストーブもありますので、ご相談ください。

木質ペレットは当社がパイオニアと言う自負がありますし、常に良いものを供給したいと思っています。ご指摘の部分は以前からありましたが、そうした声を改善につなげ品質の向上に努めています。どんなペレットにもメリットとデメリットはあります。当社のペレットは茶色く、灰が多く出るというデメリットがありますが、ストーブをこまめに掃除していただければ問題なくお使いいただけます。ペレットは柔らかくてやさしいヒノキ



庄原さとやまペレット株式会社
本山輝俊 工場長

薪ストーブ



憩いの空間作り

西城自治振興センターのホールに10月、市内の自治振興センターでは初めて薪ストーブが設置されました。

同施設を活動の拠点にする

西城自治振興区では、2年前に立ち上げた里山プロジェクトで里山資源を生かした取り組みを検討。自治振興区活動促進補助金を利用した薪ストーブの設置を決めました。

豊富な森林がある一方で、間伐材などが切り捨てられ、山の資源がもつたいないと感じていたプロジェクトは、少しでも里山の環境を良くしたい、エネルギーとして活用したいという思いがありました。プロジェクトリーダーの前本旭さんは「ペレットストーブも考えましたが、ペ

レットはお金がかかり、加工をしてもらう必要があるの
で、薪ストーブであれば投げ捨てる間伐材をすぐに利用できると思い、薪ストーブを選びました」とその狙いを語ります。

自治振興センターのリニューアルも契機となりました。

「改装もあり、いろんな人が集まるこの場所を温かい雰囲気にして、おもてなししたい」。そうした思いからストーブ設置を目指して今年3月、山から木を切り出して薪割り作業を行い、既に2シーズンほどの薪を確保しているそうです。念願の薪ストーブ設置に「公共の場に薪ストーブを設置することで、里山の資源に対する関心を啓発していきたい」とこの冬からの本格的利用を楽しみにしています。

揺らめく炎に癒やされる



竹田 至さん

ろがいいですね。とろとろと燃える情景が癒やされます」とにっこり。

また、「普段いる部屋から少し離れた土間に設置しているんですが、廊下を伝って温もりが届いてきて家の中が温まるんですよ」と声を弾ませます。

同時に、薪を調達する大変さも実感しているという竹田さん。それでも「薪はいいがまたいい。本当に癒やされる」ととりこになっています。



里山プロジェクトメンバー
有志で薪づくり



プロジェクトリーダーの前本旭さん
(左)、メンバーの捻金熊登さん(右)

薪ストーブは、スギやヒノキなどの針葉樹でも使える仕様なので、間伐材を出してもらいやすくなると思いますし、宣伝にも効果的です。薪ストーブを見てもらうことで、関心を持つ人も増え、うちにも入れようという人が増えればいいですね。薪づくりイベントなどを企画し、住民同士の交流も深めることができたら良いと思います。

薪ストーブのメリット

炎が楽しめる。
音が静か。
輻射熱・遠赤外線で暖かい。
木のにおいが楽しめる。
薪割りで体力をつけられる。など

●デメリットも知っておこう
暖まるまで時間がかかる。
熱量が不安定。
薪の調達、薪割りが大変。
煙突掃除が必要。など

庄原市ペレットストーブ等購入促進補助金
ストーブ・ボイラー本体の購入・設置・配管に係る直接的経費の1/3以内で補助。ストーブは12万円、ボイラーは50万円が上限。
■補助対象
市内に住所がある個人または事務所がある法人・団体で、市内の事業者が取り扱うペレットストーブ・薪ストーブなどを購入し、市内に設置すること。

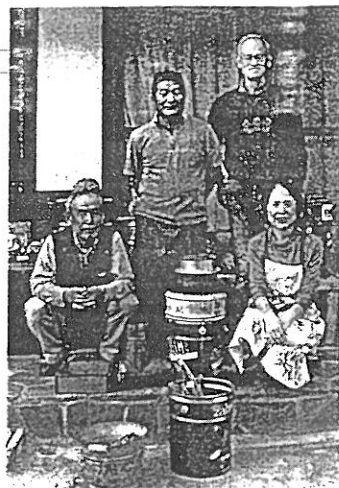
問い合わせ 林業振興課 ☎0824-73-1130

エコストーブ



里山暮らしのきつかけを生む

総領町を拠点に里山暮らしを楽しむグループ「里山木族」は、オリジナルのエコストーブを使ったさまざまな楽しみ方を提案しています。



※エコストーブ

里山木族は、5年前に開催した「抱きしめてハイテク」というイベントで、エコストーブを開発。それは、木部を横向きに曲げる必要がなく、形が安定する。煙がほとんど出ない。1台あたり約8千円で作れる。

里山木族の皆さん
左から代表の中村幸夫さん、西山昭憲さん、和田芳治さん、妻・和子さん

色々な楽しみ方ができるエコストーブは、里山暮らしのきつかけになります。里山暮らしは面白いし、人が笑顔になります。私たちは笑誇（エコ）を推進しています。

エコストーブは、アメリカで開発されたロケットストーブをヒントに開発されたクッキングストーブで、ペール缶などの廃材で作ることができ、山に放置された林地残材などを燃料として利用する文字通りエコなストーブです。

着火材は、揚げ物後の廃油をかんなくすなどに染み込ませたものを利用。空気の循環が起き、勢いよく火が上がり、少量の竹や木で驚くほどの火力を生み出します。

メンバーの一人和田芳治さんは「ぜひ一家に1台おすすめてします。自然災害が起きて電気やガスが止まっても、このエコストーブがあれば火をおこせます。そして温かいものが食べられますし、食べることで元気になる。簡単に作れますので、チャレンジしてみてください」と呼びかけています。

今こそ私たちの生活スタイルに目を向けるとき

化石燃料に限りがある中で、日本のエネルギー政策も原子力に依存する流れになってきていましたが、東日本大震災以降、エネルギーに対する見方や考え方が変わり、私たちの生活にもさまざまな形で影響しています。

そうした中、やはり目が向くのが自然エネルギー。薪やペレットといった木質燃料が見直されています。

市内でいち早くこうした動きを捉え活動してきた、NPO法人森のバイオマス研究会の八谷恭介理事長に話を聞きました。

profile

やたがい・きょうすけ
2003年に設立されたNPO法人森のバイオマス研究会の2代目理事長として、森林資源を活用した環境にやさしいまちづくりを推進。庄原市でペレット事業に最初に取り組んだ仕掛け人でもある。本業の建築業では、木の切り出しから建築までの工程をすべて手掛けるなど、森林バイオマスを活用した新たなライフスタイルを提案。(株)asunaro 工房代表取締役。妻、息子2人、父の5人暮らし。44歳

木と触れる生活を楽しみましょう

まずは自分たちの生活を見直すことから始めることがポイントになると思います。山があるところには生きているのであれば、そこにある資源を使って生活する、その中で業を興す、これが楽しくできる形になるのが理想です。薪ストーブやペレットストーブはその入り口です。

ペレットはどちらかと言うと都市向きで、庄原では薪の

理事長 八谷恭介さん



方が合っていると思います。薪は調達が大変で乾燥する場所も要ります。ペレットの方が扱いは簡単ですので、忙しい現代人向きです。

石油ストーブ、食器洗い機などスイッチ一つでなんでもしてくれる時代に、わざわざ薪割りや煙突掃除をしないとイヤなストーブは敬遠されやすいですが、そうした作業を家族ですること、家族のコミュニケーションもとれる時間が増えたり、お父さんやお母さん、子どもたちがそれぞれ活躍できたりする場面が増える、そういうことも必要だと思えます。それがライフスタイルを変えていくということですが、ストーブ自体は高いですが、そうした楽しみが得られるツールですし、こうした生活スタイルが観光業に結びつく可能性もあり、一つの魅力づくりにもつながると思います。

購入をお考えの際の注意点は、価格が高いのに、年間で使わない期間の方が長いということ。我が家にもありますが普段は邪魔になつてます。しっかり家族会議をして購入してください。